



1007号

2025年6月17日

郵政産業労働者ユニオン
呉支部発行

←中国地本HPへ
PC・スマホ等から
この情報が閲覧可！

メールはこちら→



電動バイクについて

電動バイクの配車

電動バイクの配車に対して、急ぎすぎたとの意見が職場から出ていた。

月曜日から電動バイクを配車された為、試乗訓練もまともにできず、いきなり配達という有様だった。

電動バイクはこれまでのガソリンバイクより重く、定形外郵便物が多い月曜からの乗車に現場社員の一部は困惑した。

慣れないバイクの為、「交通事故や労災が増える」と心配する社員も多かった。

翌、火曜日は雨天。

社員の懸念通り、労災は起きた。

労災に至らずとも、不慣れたバイクにより、転倒等で怖い思いをした社員もいた。

バイク更改を行うにしても、訓練などの事前準備をしつかり行うべきだ。

交通事故や労災の責任を社員に押し付ける社風だからこそ、ぶっつけ本番になったのかも知れないが、社員の命に関わるだけに軽視できる問題ではない。

バイクの操作性

電動バイクの基本性能は問題ない。

しかし、一部の社員から、方向指示器のスイッチに指が届かない、サイドスタンドを出すのが難しいとの意見が出ている。

また、ガソリンバイクに比べ、20kg以上重い為、バランスを崩すと支えるのが難しく、そのまま転倒した場合、足を挟まれるので、気を

付ける必要がある。バイクが重たいだけに、負傷リスクは高い。

更に、注意する事がある。坂道で後進させながら、前進させようとアクセルを回す事だ。

後進スピードが4kmを超えると、モーターの性質上、後進に拍車がかかる。つまり前に進むつもりが後ろに加速する。

他にも、坂道で電源を入れず、ある程度のスピード以上で下ると故障する。

ガソリンバイクではこのような現象は起きなかったが、同じ感覚で運転はできないと知っておこう。

その上で、バイクに関しては、社員から意見を聞き、電動バイクの運転が難しいと判断される一部の社員にはこれまで通り、ガソリンバイクの配車を行う配慮が必要だろう。

事故で社員が命を失ってから対応を検討しますでは、済まされない。

バイクのバッテリー

電動バイクでは、バッテリーを2個装填する必要がある。

検証した結果、バッテリー残量の少ない方を表示する仕組みとなっている。

A・B・C（それぞれ100%充電）のバッテリーがある。

A・Bのバッテリーを使用し、残量が51%を示した。

AとCだけ交換したが、残量は51%のままだ。そのままバイクを使用し、残量が19%になり点滅を始めた。

これは、交換していないBが19%である事を示している。

今度はB（19%）と最初に交換したA（51%）を交換した。

バッテリー残量は51%に戻った。

検証の為、バッテリー残量に差がある使い方をしたが、この様な使い方は好ましくない。

バッテリーは2個ともしっかり充電されたものを使う。

ガソリンと異なり、バッテリーは、残量が残り数%になれば、スピードもパワーも出なくなるからだ。

また、バッテリーの基礎知識として、充電を切ってもいけない。

充電を使い切ってしまうとバッテリー寿命が大幅に縮める。逆に残量が多いまま充電した場合も、負荷はかかるが、使い切るよりは、負荷が小さい。

会社のニュースリリース

点呼業務未実施について、一般貨物自動車運送事業の許可取り消しに関する聴聞の実施がある事を公表した。

一方で郵便物やゆうパックにおける業務は続ける姿勢を示している。

それに伴い、運送業務を他社に打診する報道も多い。

許可取り消し後、5年間は許可が取れない為、対象のトラックを売却する見込みとなるなど影響は大きい。

国土交通省も本件だけで、調査終了とはいかない。

軽自動車の監査次第で、車両停止処分など出れば、ゆうパック業務へも影響が及ぶ。

しかし、全国の7割以上で、点呼に問題ありと結果が出ているだけに、予断は許されない。

国土交通省の判断に注目が集まっている。

今後の予定

- 7月8日(火) 17:00～
第11回呉支部執行委員会
支部事務所

次号は 7月 1日 予定